

唐津青翔高校の校舎のリノベーションに係る基本方針



目的

唐津青翔高校に県内外から多様な生徒が入学し、「未来」「世界」「地域」と繋がりながら学び合うことにより、骨太でたくましい人材を育成するとともに、唐津青翔高校及び玄海町の活性化を図る。

目指す姿

- 最先端の技術、情報等(外部資源)と地域資源(ヒト・モノ・コト)をコラボレートさせることにより、唐津青翔高校でしか学ぶことができない唯一無二の体験的、実践的な教育を実現する。
- “TSUNAGARU”ことにより、生徒の視野を広げ、社会性を身に付けさせるとともに、コミュニケーション力、コラボレーション力、プレゼンテーション力、課題解決力、自己肯定感・自己有用感を高めていく教育を実現する。
- 学校と地域との垣根を低くし、高校生と地域の方々との交流や学び合いを促進する。

方向性

唐津青翔高校の特別教室棟のリノベーション

< 基本の方向性 >

- ・最先端の技術、情報の集約・集積(PC、ネットワーク等)
- ・視覚的に生徒の興味・関心等を喚起するもの(デザイン、スタイリッシュ)
- ・体験的、実践的な教育の実施(五感を使った教育)
- ・玄海町ならではのもの(動植物、自然環境、特産品等)
- ・地元小中学生との連携、保育園児・高齢者等町民の方々との交流(地域に開かれた学校)

<リノベーションの箇所>

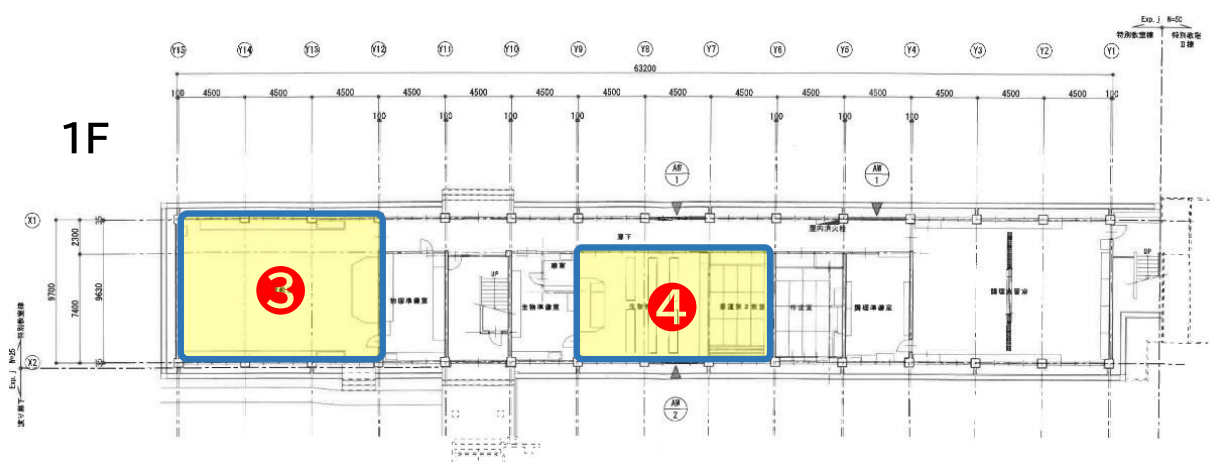
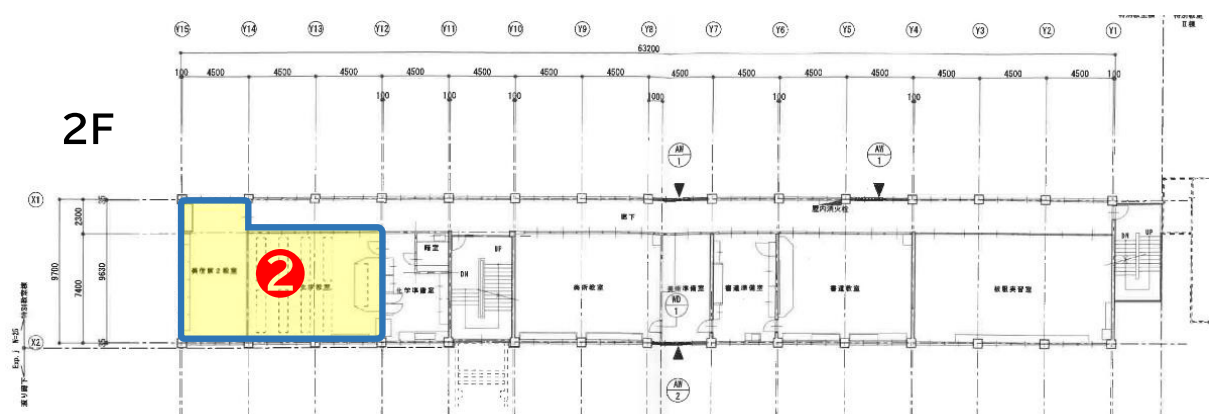
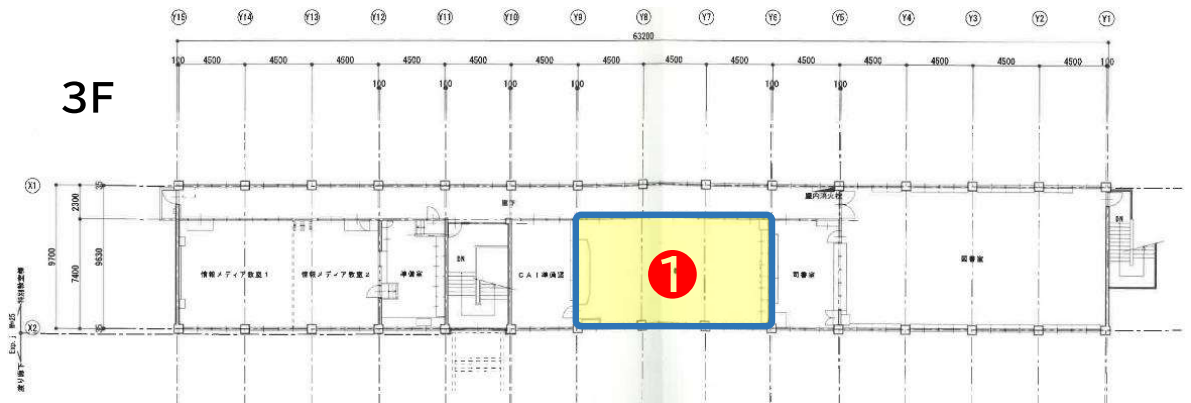
①
DXルーム
(100m²)

②
デジタルアート
スタジオ
(110m²)

③
玄海アクアリウム
(130m²)

④
玄海ラボ(理科室)
(100m²)

⑤
玄海ファーム(屋外)
(300~400m²)



①実践的な学びと技術の融合

「DXルーム」

デジタル知識やプログラミングスキルを用いて実践的な問題解決を学ぶことで、技術の進化と地域の資源や産業の価値を同時に理解する。

「デジタルアートスタジオ」

現代のクリエイタースキルを組み合わせることで伝統的な美術やデザインの知識を習得し、これを活用して玄海町の活性化に貢献する。

③地域結びつきと未来志向の教育

「玄海アクアリウム」

地域の里山・里海生物を通して地域とのつながりを学び、未来の環境保全や生物多様性の維持の方向性を探る。

「玄海ファーム」

地域の里山・里海の持続可能な利用を学び、将来の環境との調和を図る生活の在り方を模索する。

②持続可能な環境意識の醸成

「玄海アクアリウム」&「玄海ラボ」

地域の生物や環境問題について学び、持続可能な未来を目指す行動をとる意識を醸成する。

「玄海ファーム」

作物の栽培や環境研究を通して、持続可能性と人と自然の関係を深く理解する。

④社会とのコミュニケーション能力強化

「DXルーム」

国際的なeスポーツの競技や韓国との学生の交流を通じて、チームワークや相手とのコミュニケーション能力を磨く。

「玄海ラボ」

地域の問題を研究する過程で、他者との意見交換やプレゼンテーションを行い、コミュニケーション能力を高める。

